

## 成人教育における 統計教育

### はしがき

これは、水戸市立石川小学校における、統計教育についての研究発表の記録である。石川小学校は、昭和33年に、統計教育指定校に指定され、今年で第3年目を迎え先程、3年にわたる研究の成果を発表した。

「成人教育に統計教育をどう取り入れたか」という研究テーマは、当小学校の成人教育部が取り上げ、江幡喜一、粉川武雄、小岩井芳男の各氏が、共同研究者としてこのテーマに取り組んだ。

統計教育の興味ある一方向を示すものとして掲載する次第である。

### (1) P T A 両親学級に統計教育をどう取り入れたか

学校教育の全領域において、統計教育を実施すると共に、成人教育のなかにも統計教育を発展させることにより、地域社会への統計思想の普及をはかった。しかし、成人教育といつてもその領域は極めて広いので、石川小学校においては、P T A の両親学級の中に統計教育をとり入れ、又、P T A の委員会、子ども会の指導者会議、学校参観、統計図表展示会等には、統計図表を十分活かして話し合いを進めるように努めた。

実際的な方法として、成人教育の中に統計教育をどう生かすか、という問題がまず考えられるが、これについては、次の二つの方法によった。

1. 話し合いの素材として切実なものを、アンケートにより調査し、父兄の持つ問題点をよく知る。これらの調査を整理し、図表化して、話し合いのテーマを設定する。
2. 話し合いを有効に進めるため、内容の中心となるものの、図表、数表を作成し、資料として使っていく。

以上の2つの方法により、P T A の両親学級において統計教育を継続的に取り入れて来たが、その経過を順を追って眺めて見よう。

1. P T A の両親学級に統計教育をどう取り入れたか。
2. 子ども会指導者の研修に統計資料をどうかしたか。

### 1. 昭和34年第1学期の両親学級。(6月) 5月の家庭訪問期間終了後

各家庭からの要望事項を整理してみた結果、下記の2問題に要約された。

- A 子どもの躰けはどのように考えたらよいか。
- B 家庭学習のよりよいあり方はどうあるべきか。

この2問題について両親の考え方を高めることは家庭教育上極めて重要であり、学校教育と家庭教育との関連の上からも大切である。そこで、第1学期両親学級の問題を「家庭における子どもの躰」とし、低学年、中学年高学年と3日に分けて実施し、子どもの発達段階に即して、両親の経験を中心によりよい方向の発見に活発な討議がつけられた。その内容は

- A 家庭で躰けのことで困っていることはどんなことか
- B 躰けにはどんな心構えでどのようにするのがよいか。
- C 子どもの道徳性を高めるにはどうすればよいか。並びに新しい道徳の内容について。

協議の最後に、新しい道徳教育の内容を理解した上で36項目について「自分の子どもはどのようにできているか」を両親に評価してもらい、これを集計したものが、次の図表(第1図)の「両親の評価した子どもの道徳性」である。

これは教師のみた、本校児童の道徳性と略一致している。そして、この図表は、解説を加えてP T A 会報に掲載し、各家庭に配布し家庭教育上の参考に供した。

### 2. 昭和34年第2学期の両親学級(11月)

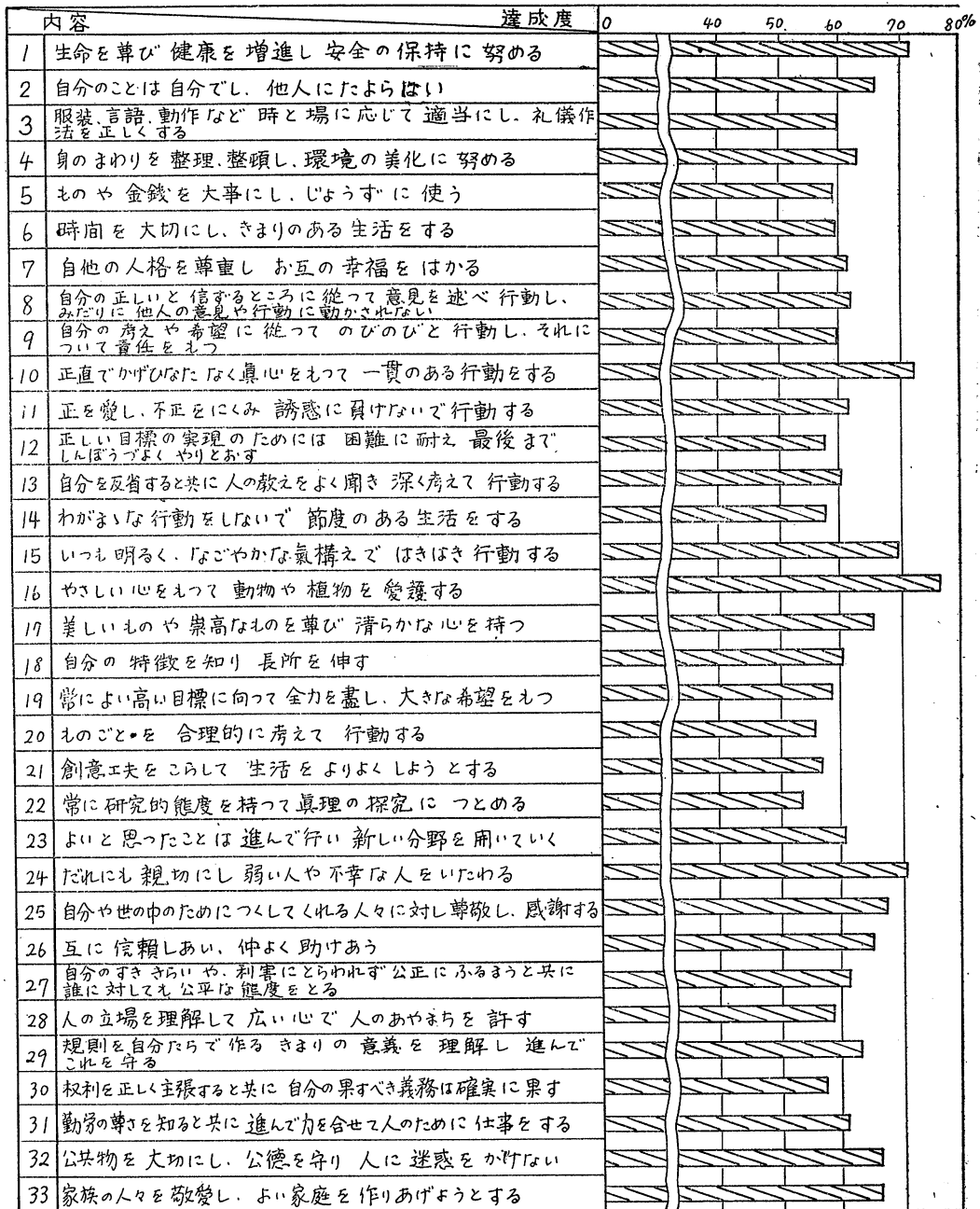
第1学期(6月)に実施した両親学級の討議記録のなかから「家庭学習」や「躰」の上で両親が最も困つていると思われる問題点を整理してみたなら次の10問題に要約された。

1. 家庭学習はどうあるべきか。
2. 読書の態度をつけるにはどうしたらよいか。
3. 子どもの質問に対する親の答え方はどうあるべきか
4. 「ほめ方」、「しかり方」はどうあるべきか。

(第1図)

両親の評価した子どもの道徳性

調査期間34.10 調査対象父兄310名



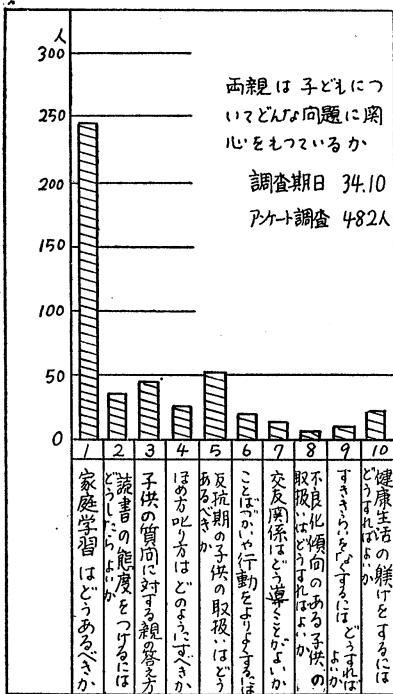
5. 反抗期の子どもの扱い方はどうあるべきか。
6. 「ことばづかい」や「行動」をよりよくするために どうすればよいか。
7. 交友関係をどのように導いたらよいか。
8. 不良化の傾向のある子の扱いはどうすればよいか。
9. 子どもが「すき」「きらい」なく食べるようにするにはどうしたらよいか。

10. 健康生活への躰をするにはどうしたらよいか。

上記10問題のうち、両親の立場からどの問題についての、話し合いを希望したかを、各家庭へ「アンケート調査」を行い、第1希望から第5希望まで順位をつけてもらった。

この調査から見た10問題に対する両親の関心の度合いは、次次の図表(第2図)のとおりである。

(第2図)



アンケート調査の結果により、上記の10問題を第1問から第5問までと、第6問から第10問までの二つに分け、それぞれ、第2学期両親学級と第3学期両親学級の2回に分けて実施することにした。

方法としては

- A 問題毎に分科会とし、司会者、記録者は何れも教師側と両親側から出して協力して行い、参加者が気楽に発言し、話し合いができるよう配慮した。
- B 分科会の後、全体会にうつり、各分科会の結果を全体に発表報告すると共に講師の総括的指導を受けた。
- C 結果はPTA会報にまとめ、全家庭に配布し今後の参考とした。

この分科会、全体会において討議をする上の資料(図表、数表)については充分調査吟味し、効果的なものを準備した。主なものをあげると次の通りである。

- 小中学校児童生徒の非行しらべ(県教育庁しらべ)棒グラフ
- 家庭でどの位学習するか(学年毎に全児童を対象調査)棒グラフ
- 学校の勉強で一番好きな教科(全児童調査)棒グラフ
- 子どもの勉強室しらべ(全家庭調査)数表
- 児童の読みものしらべ(学年毎に全児童調査)棒グラフ
- こづかい調べ(全児童しらべ)棒グラフ

- 家での勉強で私のこまること(4.5.6年調査)棒グラフ
- ラジオ調べ(全家庭)数表
- テレビ調べ(全家庭)数表
- きょうだいしらべ(全児童)棒グラフ

分科会の討議は次第に妥当な、あるべき方向に進み、家庭学習や塾の上に、両親として有効な研究をつむことができた。

各分科会の話し合いの要点をあげると次のようである。

#### 第1分科会 (家庭学習はどうあるべきか)

親は「よみ、かき、計算」が学習と考えているが、もっと広い領域の学習と考えるべきである。

子どもの個性、能力、発達程度を考慮して過重にならないようにしてやる。

過大に要求するとかえって学習をきらうようになる。子どもの家庭学習を助成するような親の態度が大切である。

子どもなりの努力を認めてやる。

#### 第2分科会 (読書の態度はどのように躰けるか)

子どもにはよい本を選んで与える。

親も子どもと共に本をよむ生活態度が子どもに望ましい影響を与えることになる。

#### 第3分科会 (子どもの質問に対し親の答え方)

わかっていることは、はつきり答え、わからないことは、「先生にたずねてごらん」と答えるか、「あとでしらべてあげる」という答え方が望ましい。

子どもと共にしらべていく態度が大切である。

#### 第4分科会 (ほめ方、しかり方はどうあるべきか)

しかる時は感情にはしらないこと。

場所を選んでしかること。

劣等感をもたせないようにしかること。

子どもの個性や能力を考えずに、友達や兄弟と比較して、その非を責めるような叱り方はまずい。

心の底からほめて満足感と自信をもたせ、発奮させる

#### 第5分科会 (反抗期の子どもの扱い方はどうあるべきか)

単に親の考えによつておさえつけることはまずい。子どもの意見をよく聞いて納得のいくしかり方がよい。

子どもをすなおに躰けるには、親自身すなおな人間であることが先決である。

子どもを叱るときは両親の意見が一致していなければならない。

### 3. 昭和34年第3学期の両親学級（2月）

第2学期の両親学級に引続き、第6間から第10間までを、第2学期と同様の方法で実施した。  
これに準備して利用した資料は次の通りである。

すきな食べ物（給食部調査）棒グラフ  
 きれいな食べ物（給食部調査）棒グラフ  
 私のなoshitaiことば（5.6年児童により調査）棒グラフ  
 私のなoshitaiおこない（4.5年児童により調査）棒グラフ  
 私はこんな友だちがすきだ（5.6年児童により調査）棒グラフ  
 ぐんぐんふえる近視眼（昭33，文部省調）  
 むし歯はこんなにふえている（昭33，文部省調）棒グラフ  
 寄生虫は10人中これだけいる（昭33，文部省調）棒グラフ  
 病気やけがのいろいろ（本校保健部による学年別、季節別調査）棒グラフ

各分科会において話し合った要点等については省略する。

### 4. 昭和35年度第1学期両親学級（6月）

昭和35年第1学期においては昨年度の両親学級とは方向を変え、家庭における子どもの生活が、より明るく、楽しく、愉快にできるよう、子どもの困っていること、子どもの願いを、親の立場から考えてもらうようなところに焦点をむけた。

そのテーマを「私が家で困ること」とし、この子どもの声を親の立場から、しみりと考えてみることにした。事前の調査として、4年5年6年の児童572名を対象に「私が家で困る」ことを2つずつ書いてもらい、その結果を整理したものが、次の図表（第3図）である。これには本校の児童として日常考えているなやみが抽出されていると思う。

（第3図）

私が家で困ること	
調査期日	35.5
調査対象	4.5.6年 575名
困っている事柄	人数
兄弟喧嘩をすると大きい方ばかり叱られる	137
困っていることがない	69
勉強するのに都合のよい室がない	68
家の人に勉強をしいられる	66

宿題でわからないことがある	66
近所にいじわるな友達がいる	62
家の手伝いを1人にばかりやらせる	61
いやな友達が多い	45
宿題が多い	41
大きな声で本を読むとうるさいといわれる	33
弟妹が勉強のじやまをする	31
家で勉強したいが参考書がない	30
家の人に勉強ができないといわれる	28
一度にいくつもの片事をいわれる	26
お母さんがるすで困る	23
遊び友達がない	23
テレビ、ラジオがうるさくて勉強に身が入らない	22
友だちが遊びに来て勉強ができない	20
お父さんとお母さんが喧嘩する	17
兄弟がない	16
お父さんはお酒を飲むとおこる	15
お兄さんお姉さんは私の相手になつてくれない	15
お兄さんお姉さんは勉強を教えてくれない	15
お父さんは勉強がちよつとでもできないとおこる	15
こづかいをもらえない	14
お手伝いが多い	13
遊び道具を買つてくれない	13
お父さんはしかつてばかりいる	12
おつかいがいやだ	11
お父さんは笑つたことがない	10
お母さんはしかつてばかりいる	9
家の人があたたく	8
お父さん、お母さんがないので困る	6
お父さんは夜ねるのが早いので私の相手になつてくれない	6
学校へ行く持ち物を買つてくれない	6
お父さんはもつとおこつてくれるとよい	5

左記の36項目を次の4つの柱のもとにまとめ、4分科会に分けて討議した。両親は希望の分科会に参加することにした。両親としてはややもすると日常無関心になすこ

しやすい問題が多かつたので、心をうつものがあり、熱心に話し合いがつけられた。

- ① 私が両親にのぞむこと。11間(第1分科会)
- ② きょうだいや友だちで私が困ること。7間(第2分科会)
- ③ うちの勉強で私が困ること。11間(第3分科会)
- ④ 持ち物やお手づだいで私が困ること。7間(第4分科会)

全体会においては、各分科会の話し合いの要点がまとめて報告され、全分科会のようにすが伝えられた。最後に全体的な指導によりまとめられた。

分科会、全体会において討議を進める上の統計資料として、次ぎのようなものが準備され活用された。

私ที่บ้านで困ること。(調査対象、4.5.6年)棒グラフ  
私はこんな友だちがすぎだ(調査対象5.6年)棒グラフ  
なおしたいおこない(調査対象4.5年)棒グラフ  
ラジオしらべ(全児童)数表  
テレビしらべ(全児童)数表  
子ども勉強室しらべ(全児童)数表  
両親しらべ(全児童)棒グラフ  
きょうだいの数しらべ(全児童)棒グラフ  
家庭学習のしらべ(全児童)棒グラフ

各分科会で討議された経過の要点は次ぎのとおりである。これらは第1学期のPTA会報に詳細記載し、各家庭に配布された。

#### 第1分科会 (私が両親に望みたいこと)

夫婦げんかは子どもの前では、お互いがまんして、やるべきでない。

もしけんかになった時はどちらかがまんして後で話し合いをする。

親のない子や、留守がちの家の子どもについては、近所の親たちが愛情を注いで面倒をみてやるようにする。笑いの少ない親たちは、もつと自分の性格を反省してできるだけこやかに子どもに接してやるのが大切である。

児童憲章にもとづいて、両親の立場からあらためて、児童の扱い方を考えてみる必要がある。

#### 第2分科会 (きょうだいや友だちで私が困ること)

きょうだいげんかの原因は、ささいなことであるが、しかり方、けじめのつけ方が大切である。

- ・親として小さい子だけかばうような態度はよくない
- ・公平な態度で接するようにする。
- ・にいさんやねえさんは、弟や妹をいたわるような躰かけ方が大事である。

友だちに悪いところがあるからと、これをのけものにしたたり、仲間はずれにするのは悪い。集団の中でなおしていくことが大切である。子ども会や、PTA、学校等は積極的に集団生活のなかでよくするよう指導すべきである。

子どもの友だちについては、親同志が交際する必要がある。

第3、第4分科会のことについてはこれを省略する。

以上、両親学級の実施の概要について述べたが、両親学級に統計教育を取り入れることにより、次のような効果があられてきた。

A 両親学級を開催するに当たり、事前調査として両親はどんなところに問題を持ち、どんな内容のものを望んでいるか。アンケートによる調査等を行い、これを集計整理して適切なテーマを設定するので、有効適切な両親学校の内容となり、両親の出席率も次第に向上してきた。

B 問題解決に当つては、充分調査してまとめられた、統計資料を利用することにより、全体的傾向を知つたり、気づかなかつた欠かみや、よい点が発見されたりして、お互に共通の理解を深め、話し合いが望ましい方向に進められ、極めて具体的、効果的である。

C 事象を整理し統計化して、これを使つていくことにより両親に統計的考え方や統計的手法が会得されてきた。

D 従来の「勘」や「経験」にばかりたよつて事を進めていくという考え方や、話し合いを脱却して科学的、合理的な考え方をする傾向が深まるにつれ、統計資料の結果を尊重していくよう次第に啓蒙されてきた。

E 統計学習に関する児童の自由研究を通して、親子ともどもに統計に親しみをもつようになってきた。

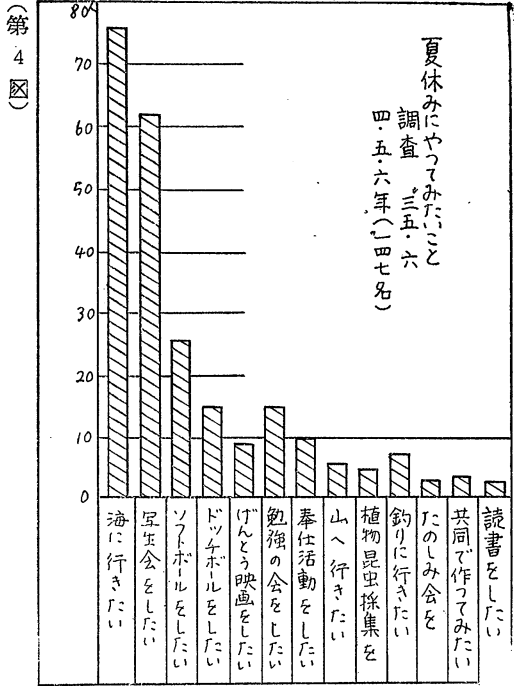
F 統計思想の啓蒙普及により、家庭生活が合理化し、改善されていく曙光が見えだしてきた。

各町内において、子供会の集会、子供会指導者の打合せや研修、PTAの支部の集会等がある際、「このような話し合いをするのですが、学校に適当な統計図表等の資料はありませんでしょうか。」という問い合わせが、次第に多くなつてきたことは、学区内に統計思想が普及されてきたことを示すものであると考えてよいのではあるまいか。

#### (2) 子ども会指導者研修に統計資料をどう生かしたか

昭和35年度夏季休業中の子ども会の指導計画をたてるに当たり、4.5.6年児童を対象に「夏休みにやつてみたいこと」の調査をした。その結果は別表(第4図)の通りである。これを十分参考にして子どもたちの自主性を培いながら、「豊かな生活」「楽しい生活」「安全で

健康な生活」をさせることに目標をおいた。



#### 子ども会の指導者の事前研修

この会合には子ども会の指導者、PTA役員、児童委員、保護司、学校職員等が参加しお互いの立場から意見を交換し、各子ども会指導の具体的計画の立案の基本的研修を行った。

参考資料として、「夏休みにやってみたいこと」(4.5.6年児童を対象に調査)「小中学生の事故調査」(県教育庁調べ)を準備し、これを中心に話し合いが進められた。

話し合いの内容は

子どもたちの希望を十分満足させ「豊かで」「楽しい」集団生活を行わせるには、どんな行事を行うよう助成したらよいか。

「安全で健康」なためにはどんな点に留意して指導したらよいか。について共通な理解を深めた上で、子どもの自主性を十分生かし、経費等も考慮にいれて子どもたちの相談相手となり、よい方向づけがなされた。

#### 子ども会の活動

どの子ども会でも子どもの希望、自主性が十分尊重され、楽しく、健康的な運営がなされた。「ラジオ体操」「浜遊び」「写生会」「たのしみ会」「ソフトボール」「ドツチボール」がよく取り入れられ、8月13日14日の両日には、全子ども会対抗の球技大会が行われ、子どもたちの興味を満喫させることができた。

子ども会指導者、教師、PTA一体となった指導体制

が確立され、全父兄の協力が高まってきた。

#### 事後の反省

夏休み終了後子ども会指導者の反省会を行って、そのしめくりをつけた。その反省として

校外生活40日間無事故であったことが最大のよろこびである。

全員参加できる行事もあるが、或行事は低学年むき、高学年むき、というように工夫すると、子どもは一層興味をもって喜んで参加する。

地域の人々の協力は次第に高まってきたが、更に全家庭に子ども会の重要性をPRする必要がある。

ラジオ体操はあまり長い期間つづけるとだれやすい。15日間位が適当ではないか。

写生会の作品を展示する場所がないので路地の板いにはつて鑑賞させたらとてもよかつた。

指導者は1人のみにまかせきりでなく行事別に交代するか、班毎に分担すると指導しやすい。(反省事項以下省略)

子ども会指導者の反省会の最後に、評価用紙によつて担当子ども会の活動状況について指導者の自己評価をした。

反省事項は次年度の企画の上に大切な資料として残していく。

